

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2026/3/2

卒業生に  
贈ります!

## 社会で生き抜く 4つのチカラ 非認知能力

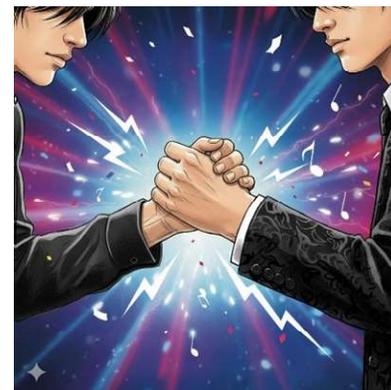
### — 協働・思いやり・気がきく・言語化 —

**祝卒業!** 社会に出ると、学力や資格だけでは乗り越えられない場面が必ずあります。そこで必要になるのが①協働 ②相手の気持ちを考える ③気がきく ④言語化する力。「人と働く」「人と生きる」うえで欠かせないスキルを特集します。(編集 教頭)

#### ① 「協働」 —— 1人ではできないことを、チームで成し遂げる力

社会で必要  
になる場面

- 仕事のプロジェクトをチームで進める時
- トラブルが起きた時に役割を分担して解決する時
- 意見が違う人同士でゴールに向かう時



☆「協働」の本質とは…“誰かと一緒に成果を出すために、自分の役割を果たす”こと。社会では「自分だけ正しければいい」「1人でやった方が早い」では成立しない場面が出てきます。

#### ② 「相手の気持ち・立場を考える」 —— 人間関係の基礎

社会で必要  
になる場面

- お客様・取引先の困りを理解して提案する時
- 後輩・同僚へのフォローを行う時
- 上司の意図を汲み取り仕事を進める時

☆これができる人は、信頼され、相談され、チャンスを得ます。「思いやり」は優しさではなく、“ビジネス”でも武器になる!

#### ③ 「気がきく」「気を遣える」 —— 誰かが“助かる”行動をできる力

社会で必要  
になる場面

- 会議の準備をさりげなく整えておく
- 忙しそうな人の業務をサポートする
- 相手が言いにくそうなことを汲んでサッと動く

☆「媚びる」「無理する」ことではありません。ポイントはただ1つ→“自分以外の人もいる”という視点を持てるかどうか。

#### ④ 「言語化」 —— 話さないと伝わらない。言わなければ動き出さない

～社会は“察しろ文化”ではなく「言わないと伝わらない世界」でもある～

社会で必要  
になる場面

- 依頼、報告・連絡・相談
- 誤解を防ぐための説明
- 感謝・謝罪・お願い

- ◆ やってほしいこと → 伝える
- ◆ 困っていること → 伝える
- ◆ 嬉しい・感謝 → 伝える

☆思っているだけでは、誰にも伝わらない。

こうした言語化は仕事・人間関係をスムーズにします。

**◎③と④は矛盾しないの？** 確かに「③言わなくても気づく力」、「④言わなきゃ伝わらない力」。一見反対に見えます。でも、両方できると社会において人間関係がスムーズになる。相手に信頼されるし、誤解されない人になる。察して、気を遣える人に、そして相手に自分の思いや考え方を伝えられる人、すなわち、**察する力+伝える力=信頼される人**になる。

「SAH」というキーワードで前南の3年間を過ごした今年の卒業生。「非認知能力の育成」というものがピンとこなかった生徒も、大学生や社会人になって、「非認知能力」というスキルが重要だと認識するかもしれません。自己理解、セルフマネジメント力、レジリエンス、コミュニケーション能力 etc.・・・これからも“意識して”磨いていきましょう！

## まだ進路が決まっていない3年生へ

### 国公立前期試験を終えて私立大学、厳しい戦い

1, 2年生も必見! 数年後  
をイメージして! 今年と同じ  
傾向になると予想されます

国公立前期の合格発表はこれからなので、卒業式の日に進学先が決まっていないというのが普通です。この後、国公立は3/8 中期日程、3/12 後期日程と続きます。私大個別入試に目を向けると、予想した通りですが、昨年と同様かそれ以上の厳しい戦いとなっています。そういう状況の中で、「この後注意すべき2点」を紹介します。

#### ①【国公立中期・後期日程に出願している生徒へ】必ず受けきる。その理由は・・・

私大の受験がかなり厳しい戦いとなっている2026年入試、2月に受験した私大の結果が出ていない受験生が、急に国公立2次試験を受けることはできません。つまり、2/4 出願×切だった国公立2次試験は今回の厳しい私大の結果の影響は“あまり”受けません\*。「2/4 までに出願した人たちの中での戦い」となります。2月の私大入試で結果が出ず、自信を失い心が折れているかもしれませんが、その気持ちを引きずったまま中期・後期入試に向かってしまうと良い結果が出ません。今回の私大個別入試と国公立2次試験は「別物」です。気持ちを切り替えて、中期・後期、しっかり受け切ってください。

\*「影響は“あまり”受けません」という表現は、言い換えると「“少し”受ける」ということです。具体的には、「第一志望は私大で、国公立も出願している受験生」が、行きたかった私大に受からず国公立まで受けに来る。今年2026年は私大入試が厳しかったため、例年に比べて国公立まで残っている受験生が多い可能性があります。

#### ②【私大個別入試が不合格だった生徒へ】繰り上げ・追加合格の可能性は・・・

私大入試が厳しいのは昨年の2025年入試からで、背景に私大の定員厳格化による合格者の絞り込みがあります。今年2026年入試も定員厳格化の影響が続き(来年、再来年も続きます)、それに対応するため受験生が受験校を数校増やしたり、滑り止めを例年に比べてワンランク下まで出願したりしているため、志願者数が軒並み増えています。

そして、ここから推測に入ります。定員厳格化を気にする大学は定員超過を避けるため、最初の合格発表で「合格者を絞る」可能性があります。繰り上げ・追加合格で残りの定員を埋めていく戦略の場合、**この後繰り上げ・追加合格が出る可能性**があります。最初の定員厳格化の影響を受けた2017~2019年の入試がそれでした。一方で、大学が定員厳格化(やこれまで取り過ぎた)のため、最初から「合格者を絞る」のであれば、最初の合格発表で終わり、繰り上げ・追加合格は期待できません。

「期待せず、でも気にして待ちましょう」というのが繰り上げ・追加合格へのスタンス。合格の対象者が不合格者全員なのか、発表時に指定された者(補欠合格)だけなのか、大学によって違います。繰り上げ・追加合格の発表がいつなのかも含めて、大学の受験マイページやHPを確認しておきましょう。私大の繰り上げ・追加合格が多い年は、**国公立の繰り上げ・追加合格**も増えます(その場合、3月末に連絡が来ます)。私大は受験マイページに掲載されるだけのことが多いので見逃さぬよう。